

令和4年度 高齢者就業事例集



名古屋市高齢者就業支援センター

発行年月日：令和5年3月

発行

(指定管理者) 公益社団法人 名古屋市シルバー人材センター



所在地

〒466-0015

名古屋市昭和区御器所通3丁目12番地の1

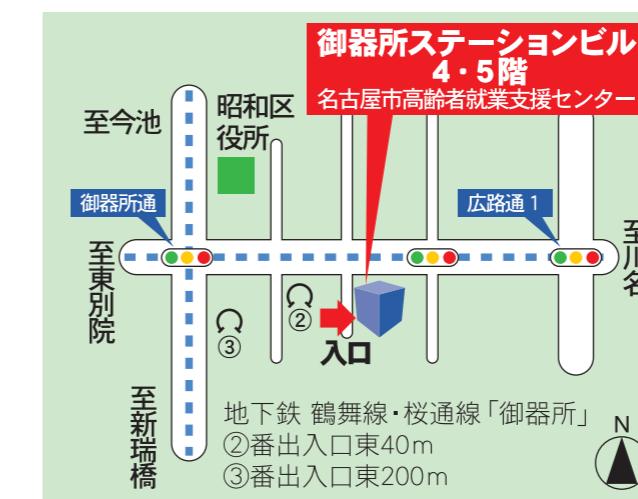
TEL 052-842-4691 FAX 052-842-4894

E-mail : bes-center@mub.biglobe.ne.jp

ホームページ <https://www.bes-c.com>

f <https://www.facebook.com/koureisha.shuugyou.nagoya>

ご案内図



はじめに

名古屋市高齢者就業支援センターは、平成九年七月に名古屋市が設置した「公の施設」で、現在、公益社団法人名古屋市シルバー人材センターが指定管理者として、運営しています。

高齢者が人生の第二・第三のステージにおいても、社会の担い手として生き生きと活躍できるように、関係機関と連携を図り、相談や情報提供、技能講習、自主事業支援、交流啓発を行うなど、相談から就業まで一貫したサービスを提供し、意欲と能力に応じた多様な就業の機会が確保されるよう支援をしています。

このような取り組みの一つとして、名古屋市高齢者就業支援センターの講習やサービスを利用し元気に活躍されている高齢者や就業先の雇用主の方などを取材して、事例集を作成いたしました。

今後、高齢期を迎える方が個々の能力を活かしながら社会へ参加し、また、事業主の皆様が高齢者の活用をお考えの時の参考にしていただければ幸いです。



名古屋市高齢者就業支援センターが行った「竹工作教室」での作品

C O N T E N T S

事例 3

「令和3年度 植木剪定従事者養成講習」を受講し、「公益社団法人 名古屋市シルバー人材センター 北部支部」で植木手入れの仕事をしている加藤紀子さん

(名古屋市シルバー人材センターで就業)

事例 2

「就業にも役立つパソコン」シリーズを（基礎）から（応用）まで1年かけて受講し、NPO法人PCマスターズの構成員となり、パソコン講座の講師として活躍している有賀和代さん

(一般企業・法人・団体で就業)

事例 1

「令和4年度第1回 介護職員初任者研修」を受講し、「社会福祉法人 紫水会 オーネスト希望」で介護職員として活躍している澤野正巳さん

「令和4年度第1回 介護職員初任者研修」を受講し、「社会福祉法人 紫水会 オーネスト希望」で介護職員として活躍している澤野正巳さん



就業者氏名

さわの まさみ
澤野 正巳さん 71歳
(令和4年12月取材時)



就業施設名

社会福祉法人 紫水会
オーネスト希望
天白区植田山二丁目101番地

● 法人・施設紹介

紫水会は、高齢者施設を始め計22施設を有する社会福祉法人です。

各施設に冠している「オーネスト」は、「誠実な」との意で、あらゆることに誠実に向き合い、祖先からの様々な恩恵に感謝し、次世代に継いでいく決意を込めています。

オーネスト希望は、現在法人内唯一の障害者施設ですが、この地に開設して7年になります。地域に親しむ活動にも取り組み、様々な行事を企画しています。利用者様がご自分の意思で行動される場面を大切に、豊かな人生を過ごしていただけます。

● 施設へのアクセス

地下鉄「植田」→市バス「植田寮」徒歩1分
地下鉄「星が丘」→市バス「植田山住宅北」
徒歩5分

○ 澤野さんの仕事ぶり
オーネスト希望 都竹三千代施設長
にお聞きしました

初めてお目にかかった時に、温厚なお人



利用者さんと談話する澤野さん

● 今後の抱負は

利用者さんと接するとき、どんなことに気を付けていますか

講義の中で、「障害者施設で、男手が求められている。」との講師の話を聴き、障害者施設での就職を決意しました。今の職場は、以前より土地勘があるて、親近感を持つています。

介護現場では、『人が欲しい』ことが実感されます。

● 今後の抱負は

実際に働いてみてどうですか

この研修を案内されました。介護される側になる前に、介護する側の仕事をするのもいいなと思い受講しました。

● 研修は、どうでしたか

講師の先生が、テキストの説明だけでなく『現場で、こんなことがあった。』と自分の経験を話してくださいり、現場で働くイメージがつかみやすかったですね。

腰を痛めない動き方など身体のことだけでなく、利用者さんへの接し方の基本ができたと思います。いろいろな知識も、例えば人権に関する考え方など、ケアの質を考えるうえで基礎になるので、知つておくべきことを感じています。

○ お休みの日に、澤野正巳さんにお聞きしました
何でしたか
介護職員初任者研修受講のきっかけは、

70歳をすぎ、『1日めいっぱい働いて1日を終わる生活がしたい』と思い、高齢者就業支援センターに相談に行つたところ、

お忙しいにもかかわらず、取材に協力いたいた都竹施設長さん、澤野さん、本当にありがとうございました。

この70代は、まだまだ元気ですので、世の中全体が『働く』方にシフトするのではないかでしょうか。自分も、動かないと思いつつくるので、75歳を目指に今の仕事を続ければ…と思っています。



笑顔が素敵な都竹施設長

● 取材者の所感

お忙しいにもかかわらず、取材に協力いたいた都竹施設長さん、澤野さん、本当にありがとうございました。

施設長の「職員同士が高めあって、利用者様の自立に向けて、アドバイスしあえる施設であります。」とのお言葉に感動！

仕事中、利用者さんに囲まれる澤野さんを見て、私も嬉しくなりました。

オーネスト希望の皆様と澤野さんの益々のご活躍をお祈り申し上げます。

取材／北田映子（高齢者就業支援センター）

この記事をお読みいただいた皆さんから

介護職員初任者研修を受講しませんか？

介護現場では、『人が欲しい』ことが実感されます。

まだ3か月しか経っていないので、おこがましいのですが、仕事中は、利用者さんの思いを大切にするよう心掛けています。施設利用者の方は、支援員をよく観ています。例えば、トラブル時の仲裁も、単に止めるだけではなく、両者それが満足できるよう、その

● PCマスターズ代表のお二人に聞きました
(代表・藤津雅由氏、副代表・浅井健氏)

當を心掛けています。そのため、名前を呼ぶときは全員が(役職名等ではなく)、「〇〇さん」です。

● NPO法人の設立や構成員として活動する魅力は

「就業にも役立つパソコン」シリーズを(基礎)から(応用)まで1年かけて受講し、NPO法人PCマスターズの構成員となり、パソコン講座の講師として活躍している有賀和代さん



就業者氏名
ありが かずよ
有賀 和代さん 64歳
(令和5年1月取材時)

法人名
NPO法人PCマスターズ
千種区今池四丁目3-17 柴田ビル1F
構成員:13名 賛助会員:約80名

有賀さんが所属するNPO法人PCマスターズは平成9~11年に名古屋市高齢者就業支援センター(以下「センター」)が開催したパソコンインストラクター講習会を受講したメンバーによって、平成12年に結成されました。平成17年にはNPO法人格を取得、平成29年には内閣府より、社会参加活動を積極的に行っているグループを賞する「社会参加賞」を受賞。パソコンが大好きで、社会貢献ができる事を喜びとするシニアの構成員が、パソコンの技能習得を希望されるシニアの方等を対象に支援活動を行っています。

有賀さんは、センターのパソコン講座を受講した後、当団体に入りました。当時、新メンバーの加入が暫く無く、また団体としても高齢化が進む状況の中、50代の「若手」である有賀さんの加入は、団体の活性化につながりました。活動として、令和4年度は、センター主催の講座「パソコン入門」や「ワード基礎」「年賀状作り」のメイン講師を担当してもらいました。ワードなどを利用して絵を描くのが得意で、賛助会員のパソコン絵画グループの指導も担当しています。穏やか、ソフトな語り口で、細かな所にもよく気が付くのが得意で、細かな所にもよく気が付くので、「またこの先生に習いたい」と事後アンケートに記入する受講生も多くみえます。

● 構成員はみなさんシニアということです が、団体の運営にあたって配慮や工夫している事があれば教えてください

メンバーは、かつて会社役員、団体の長、学校の先生、主婦等様々な経験をした人が集まっています。パソコンのスキルに関しても、得意分野が異なります。それぞれのできる事を活かして、役割分担を意識するとともに、ここでは、上二つの講座の準備は入念に行っています。

雇用延長の流れの中で、65歳定年、さらに70歳定年も提唱されています。しかし、現実は一部の技術者や技能者に限るのではなく、つまり多くの方は65歳を過ぎてどうするかが問題となると思っています。特に、高齢者の就業動機としては、金銭面の事だけではなく、これまでの知識や経験を活かして少しでも社会とかかわりたい、貢献したいという気持ちがあるのだと思います。特に、利潤追求でなく、社会貢献を目指すのであれば、NPO法人の設立も一つの選択肢です。NPO法人は対外的に信用がありますし、法人として契約の主体になれることもメリットです。また、株式会社のような株主制と違い、活動する構成員が、自分達の考え方で運営する事ができるのが魅力です。

構成員のメンバーは「働いている」というよりも、自身も学びながら、そのパソコンスキルを活かして、同じシニアの方々に少しでも喜んでもらえることに生きがいを感じています。

パソコンは、今後の人生や趣味にも大変役立ちます。定年を迎えて、まだまだ働く方は沢山おられます。

当団体は、有賀さんのように、パソコン講

有賀さんにお聞きしました

● PCマスターズ入会のきっかけは

離職中に、センターの就業相談コーナーでパソコン講座がある事を聞き、まずは「エクセル基礎」講座を受講しました。それがとても分かりやすくて良かったので、その後「応用」講座まで、1年間をかけて全てのパソコン講座を受講しました。

前職では、パソコンで決まった箇所に入力するだけの仕事だったのですが、講座を受けて、パソコンの基礎を学ぶことの大切さや、学ぶことの楽しさを知りどんどんはまってきました(笑)。

同年代の受講生の人達ともすぐに打ち解け、今でも仲良くしている人もいます。しかし、講座終了後、それだけではなく「習得」できないと感じ、引き続き、講師であるP Cマスターズの今池教室で個人レッスンを受け始め、そこで2年ほど学んだ後、声を掛けたところがきっかけです。

私自身が受講生だったので、「仕事をする」というより、パソコンの勉強を続けています。



パソコン講座の講師を勤める有賀さん

● 生涯現役で働きたいと思っている方へ

今は、オンライン等、一丁でつながる世の中になっています。「パソコンなんて無用」と思っていても、今後、再就職先でパソコンを扱わなければいけない場面や、日常生活の中でも、オンラインでの手続きが必要になります。そのため、自分が受講生だったので、「仕事をする」というより、パソコンの勉強を続けています。

● PCマスターで仕事をしてみて

単に「パソコンの技術を教える」というよりも、一緒に楽しみたい、パソコンを好きになつてもらうて、その上で就業につなげてもらえば…そんなことを気に掛けながら、一つひとつ講座の準備は入念に行っています。

初めてセンターで講座を受講してから6年程なりますが、まだまだ講師として学ぶところはたくさんあると思っています。そういう意味でも、まだまだ道半ばですし、今後もパソコンを通じて色々な人と交流し、できるだけ長く続けたいと思っています。

中には、オンライン等、一丁でつながる世の中になっています。「パソコンなんて無用」と思っていても、今後、再就職先でパソコンを扱わなければいけない場面や、日常生活の中でも、オンラインでの手続きが必要になります。

● 取材者の所感

センターの講座を通じて仲間や仕事と出会い、そして何より新たな自分との出会いで世界が広がった!と笑顔でお話くださった有賀さん。これからも様々な「出会い」を楽しみながら、活躍される姿を応援していきたいと思います!

取材／白井華菜子(高齢者就業支援センター)

シニアにとって、パソコンやスマートホンが身近な存在になるよう、お手伝いができればと思っていました。

シニアにとつて、パソコンやスマートホンが身近な存在になるよう、お手伝いができればと思っていました。

パソコンは、今後の人生や趣味にも大変役立ちます。定年を迎えて、まだまだ働く方は沢山おられます。

当団体は、有賀さんのように、パソコン講

シルバー人材センター北部支部に植木手入れの受注状況などを取材しました

「令和3年度 植木剪定従事者養成講習」を受講し、「公益社団法人 名古屋市シルバー人材センター 北部支部」で植木手入れの仕事をしている加藤紀子さん

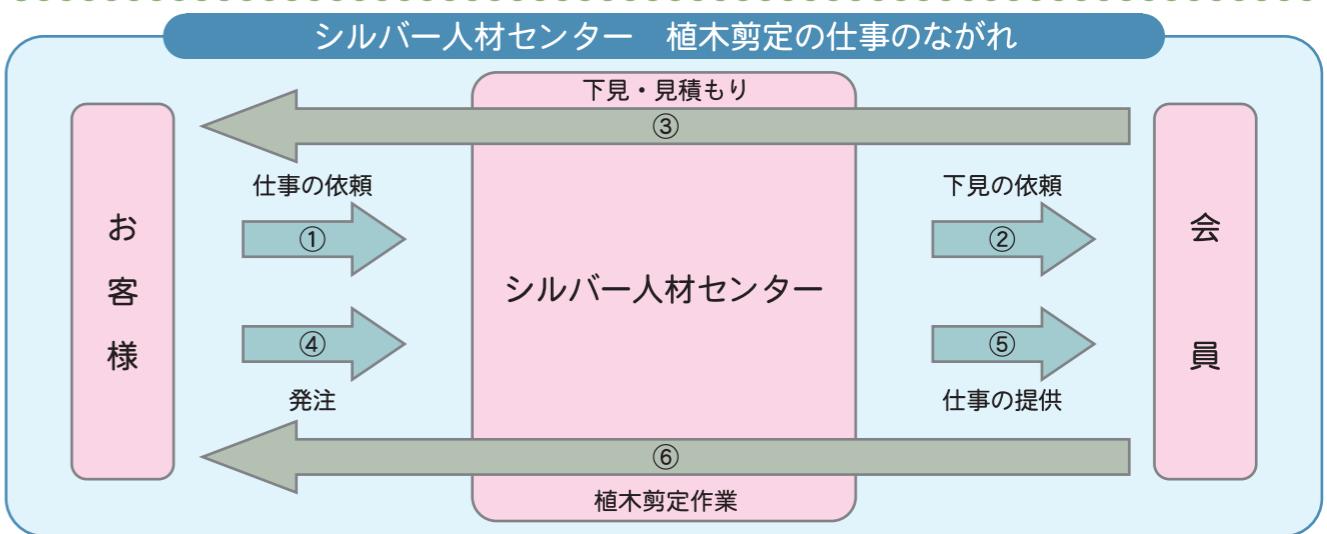
就業者氏名 かとう のりこ 加藤 紀子さん 70歳
(令和5年1月取材時)



団体名 公益社団法人 名古屋市シルバー人材センター
昭和区御器所通3丁目12-1

シルバー人材センターとは

「法律」に基づいて、名古屋市、愛知県、国(厚生労働省)の協力を得て運営されている公益的な団体です。
会員同士が共に働き、共に助け合うことによって、生きがいの充実を図り、活力ある地域社会づくりに寄与することを目的としています。



植木手入れの受注状況など

北部支部では、令和3年度に一、四〇二件の植木手入れ作業を、延べ六、〇〇六人の会員で対応しました。
ご依頼は特に9月頃から12月頃の間に集中します。料金は会員が事前に下見をして決めますが、一人工(7時間)の配分金一一、〇〇円、道具・運搬費として一か所一、二〇〇円が必要で、このほか事務費や交通費などの諸経費が加算され、残材の袋詰めまでお引き受けすると約一五、〇〇〇円となります。

加藤さんは受講後、北部支部に所属され、一年目から現場で就業をされています。現在は、ペテランの植木会員とコンビを組みながら就業されており、職員からの信頼も厚いです。これからも植木就業にご尽力いただければと思います。

加藤さんの仕事ぶり

同じシルバー人材センターの会員である

受講されたきっかけは

植木手入れの現場は、毎回変化があり、仲間と一緒に行動しながら、楽しく仕事をしてい

ます。また、野鳥を観察することが好きで、仲間と一緒にバードウォッチングに出掛けて楽しんでいます。

今後の目標は

剪定の仕事は、肉体労働と見られがちですが、剪定には美的なセンスが必要なため、女性も十分に仕事ができます。

これまで、女性の植木手入れの会員は少ないので、技術と知識をさらに積み重ねていきたいと思っています。剪定の仕事は、肉眼労働と見られがちですが、剪定には美的なセンスが必要なため、女性も十分に仕事ができます。これからも様々な現場を経験していくのがいのある仕事です。

取材者の所感

加藤さんは、笑顔が素敵で、お話をうかがつている時も、剪定の魅力についてとても楽しくお話ししていました。

また、現場では積極的に動いて剪定をしており、常に木の状態を見極めながら剪定をされている姿が印象的でした。
これからも、健康にご留意され、笑顔で楽しくお仕事をしていただき、ますますのご活躍を心より期待しております。

取材／宮沢琢也 (高齢者就業支援センター)

仕事で心掛けていることはありますか

発注者様の希望がおまかせであったり、細かな指示があつたりとそれ違のうので、要望をできる限り聞いて、それに応え方などを教えてもらいました。木の状態によつては、木に負荷がかから

る主人が、以前から植木手入れの仕事をしていましたが、一緒に仕事をされていた方が亡くなってしまい、そこで助手として仕事をするようになりました。

シルバー人材センターに入会した当初は、除草の仕事をしていましたが、助手として手伝ううちに、植木の剪定に興味を持つようになりました。そこで、高齢者就業支援センターが植木剪定従事者の養成講習を開催していることを知り、受講しました。

座学で学んだ内容は理論的ですべての木に応用できるので、いろいろな場面を想定しながら学ぶことができたと思います。本当に剪定を実際に剪定しながら、自然樹形の整生垣を実際に剪定しながら、自然樹形の整え方などを教えてもらいました。

講習はどうでしたか

講師の樹木医の先生方の説明が、木の成長や光合成などについて、科学的に重要なポイントを説明され、とても分かりやすくて理解できました。

座学で学んだ内容は理論的ですべての木に応用できるので、いろいろな場面を想定しながら学ぶことができたと思います。木に応用できるので、いろいろな場面を想像しながら、自然樹形の整え方などを教えてもらいました。

健康を維持するために心掛けていることはありますか

剪定の仕事は、仕事中は身体を動かしていて体力を使うので、食欲が出て健康的に食べることができます。

普段の生活は、自分の好きなことをやって、やりたくないことはやらないというスタイルで、ストレスをためないようにしています。

また、仕事の時は夫婦で一緒に行動しているので、現場へ整った姿を見た時は、全然違うので、想像します。透かし剪定など時間がかかる内容について予定の時間内に終わらせることが出来るように考えながらも、丁寧な仕上げを心掛けています。

きちんと剪定を行うと、翌年の仕上がりがます。



就業現場の様子

木の状態によつては、木に負荷がかから

